

男鹿市の施設など

5団体を表彰

県バリアフリー推進賞

第四回県バリアフリー推進賞の表彰式が十六日、県庁で行われ、バリアフリー社会づくりに積極的に取り組んでいる五団体が表彰された。

表彰式には、四団体の代表者が出席。西村哲男副知事か



ら表彰状を受け取った。

このうち、施設部門で受賞したケアホーム木精(男鹿市、運営者・日本ケアシステム)は、秋田杉をふんだんに使用した内装、出入り口も含めたフラットな全体構造、車いすのすれ違いも簡単な広い廊下などが評価された。推進賞選

考委員長の菅原香織・秋田公立美術工芸短大助教は「秋田杉を使うことにより施設内においてがなくなるので驚いた。入り口も道路と同じ高さで利用しやすい」と話した。

また、活動部門(一般)で受賞した仙北まるごとバリアフリー実行委

県バリアフリー推進賞の受賞団体代表者と西村副知事、県庁第一応接室

員会(大仙市)は、地域の小学校を対象に、障害者や高齢者への理解を深める啓発授業を行ってきたことが評価された。菅原委員長は「教科書だけでは伝えきれないこともあり、活動は現場の教員にとっても参考になる」としている。

その他の受賞団体は次の通り。
【施設部門】湯沢市ふるさとふれあいセンター(運営者・湯沢市) 【活動部門・一般】バリアフリーコーディネーター県北部連絡会(能代市) 【同・ジュニア】広面小学校(秋田市)

バリアフリー推進賞について

この度は「バリアフリー推進賞」に御応募いただきありがとうございます。また、受賞されました皆様には心よりお喜びを申し上げますとともに、皆様のこれまでの活動に対し、深く敬意を表します。

少子化と急速な高齢化などにより、家庭や地域社会のありようが大きく変化してきています。このような時代には、一人ひとりが個人として尊重され、誰もが自らの意思で行動し、安全で快適に生活できるバリアフリー社会の実現が求められます。そして、このバリアフリー社会を実現するためには、行政だけではなく、県民や事業者の理解を深めながら、社会全体で取り組んでいくことが大切です。

この表彰制度は、バリアフリー社会づくりに積極的に取り組んでいる方や活動団体、事業者の方を広く県民の皆様に紹介し、優れた取組を普及させるために実施しており、今年度で4回目となります。

この表彰が契機となり、この度受賞された皆様を始めとして、県民一人ひとりがバリアフリーに対する理解を深め、活動の輪が一層広がっていくことを期待しております。

最後に、審査に当たられた選考委員の方々には、心よりお礼を申し上げます。

平成21年3月 秋田県知事 寺田 典城

審査を終えて(選考委員講評)

選考委員会では、書類審査と現地審査を実施し、①内容、②波及効果、③将来性、④利用者視点、⑤自発性、⑥継続性などの観点から評価を行い総合的に判断しました。

今回の受賞事例は、それぞれ「設計の段階から当事者の意見を取り入れている」「地域密着型の施設として、多くの高齢者や障害者が利用している」「福祉、建築、医療等、様々な業種の専門家が連携しバリアフリーの推進に取り組んでいる」などの優れた特色が評価されました。ただし、各部門とも、もう一步踏み込んだ積極的な姿勢や活動の広がりがみられれば、なお一層素晴らしいものになると思います。特に施設部門においては、家具の配置や設備の使い勝手などを利用者目線で改善して、変化する状況に柔軟に対応できる管理運営が大切だと感じました。

最後に、この表彰を契機として、人にやさしいまちづくりが一層推進されることを期待し、全体講評いたします。

秋田県バリアフリー推進賞選考委員長 菅原 香織

平成20年度《第4回》「秋田県バリアフリー推進賞」受賞一覧



【施設部門】

施設の名	所在地	設置者
●ケアホーム木精	男鹿市	株式会社 日本ケアシステム
●湯沢市ふるさとふれあいセンター	湯沢市	湯沢市



【活動部門(一般)】

個人・団体名	活動の内容
●バリアフリーコーディネーター県北部連絡会	バリアフリーの普及啓発及び関係機関との連携推進
●仙北まるごとバリアフリー実行委員会	「こころのバリアフリー」に重点をおいた啓発授業



【活動部門(ジュニア)】

個人・団体名	活動の内容
●秋田市立広面小学校	ボランティア委員会を中心とした活動

施設部門

●ケアホーム木精

所在地 ● 男鹿市船越字内子294

用途 ● 福祉施設

設置者 ● 株式会社日本ケアシステム

設計者 ● 株式会社小野建築研究所



施設全景



段差のない入口を入ると、すぐに受付の前へ



車いすでのすれ違いが容易な広い廊下



広いスペースが確保されたトイレ



浴室にも手すりを多く設置

講評

内装などに秋田杉がふんだんに使用されており、入居者が気持ちよく生活できる居住空間が確保されている。また、「出入口も含めたフラットな構造」や「広く確保された廊下の幅」などは、車いす利用者等に配慮したものであると同時にバリアフリーのみならず、防災上の観点からも非常に優れているものと判断できる。